

令和 7 年度第33回全国高等学校生徒商業研究発表大会
審査委員長講評

令和 7 年11月12日

本日は、第33回全国高等学校生徒商業研究発表大会において、素晴らしい発表を拝見させていただき、誠にありがとうございました。審査委員を代表し、全20校の発表について総括した講評を申し上げます。

まず、どの研究も甲乙つけがたい完成度で、素晴らしい研究であったこと、そして、どの発表にも共通して感じられたのは、商業の学びを社会の力に変えようとする情熱です。地域の課題を丁寧に掘り下げ、理論を実践へと結びつける姿に商業教育の可能性を感じました。

今年度の研究を総括すると、大きく 3 つの傾向が見られました。

1 つ目は、デジタル技術や A I を積極的に活用した新しい挑戦です。販売の効率化や在庫管理、顧客データの分析など、I T を駆使して地域や企業の課題を解決する実践が多く見られました。新しい技術の導入だけではなく、「なぜこの課題を解決するのか」という目的意識が明確であり、理論に裏付けられた研究が増えてきたことを、大変、嬉しく思いました。

2 つ目は、S D G s や地域資源を軸にした持続可能なビジネスの創出です。廃棄されていた素材を限定品として再生させる取組、使われていない農産物を加工・販売する仕組み、地域の生産物や商品に新しい価値を吹き込むマーケティング戦略など、どの研究も地元の人々の思いや文化を大切にしながら、新しい経済の形を創ろうとしていました。

そして、これらは環境にやさしいだけでなく、地域を元気にするという視点がしっかりと根づいていた研究であったことに大きな成長を感じました。

3 つ目は、人とのつながりや協働・創造を大切にする取組です。企業や行政、福祉施設、小学校、そして地域の方々など、多くの人との協働を通して成果を生み出していました。その中には、思うように進まなかった経験を丁寧に分析して、次への改善につなげた学校もありました。まさに、失敗もまた貴重な学びであることを実践で示してくれた発表でした。

発表の中には、巡回セールスマン問題という数理の理論を商業に応用した研究や D A O という新しい組織運営の形を探る挑戦もありました。また、伝統産業の再生や観光振興、教育格差の解消など、社会的意義の大きなテーマにも多くの学校が取り組んでいました。いずれも、単なる活動報告ではなく、課題発見・仮説の設定・検証・改善という探究のプロセスがしっかりと形になっており、全国大会にふさわしい完成度でした。

特に印象的だったのは、どの学校も地域社会を少しでもよくしたいという思いが研究の根底にあったことです。商業教育が、経営・経済の学びであると同時に、社会に貢献するための学びであることを、皆さんが改めて示してくれました。

今日の発表を拝見して感じたのは、全国の商業高校の研究が確実に進化しているということです。地域の課題を的確に捉え、データを分析し、理論的に考え、そして自ら行動する力は、これからの社会が最も必要としている力です。皆さんはすでに、その経験を積んでいます。

研究成果はもちろん素晴らしいですが、課題を見つけ、仲間と話し合い、失敗を重ねながら、一つずつ形にしていく経験こそが、皆さんを次の成長へと導く本当の学びです。

これから先、社会はますます変化していきます。しかし、今日の皆さんの発表を通じて、どんな変化の中でも、商業の学びは人と地域をつなぎ、未来を創造する力になると強く感じました。全国の仲間と出会い、研究成果を堂々と発表し合った経験を次のステージでも活かしてほしいと願います。

最後に生徒の皆さんと指導にあたられた先生方の努力と情熱に、心から拍手を送りたいと思います。改めて、本日は、素晴らしい発表、ありがとうございました。

以上で講評といたします。